

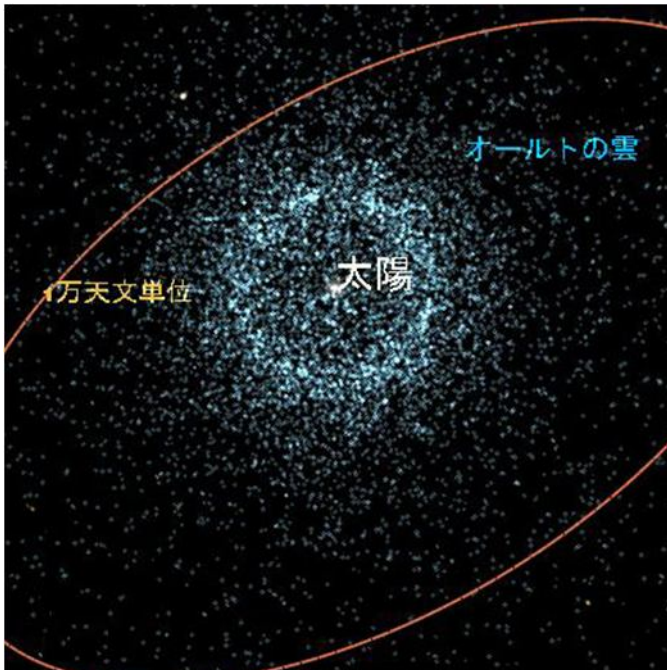
「天文ソフト “Mitaka” (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

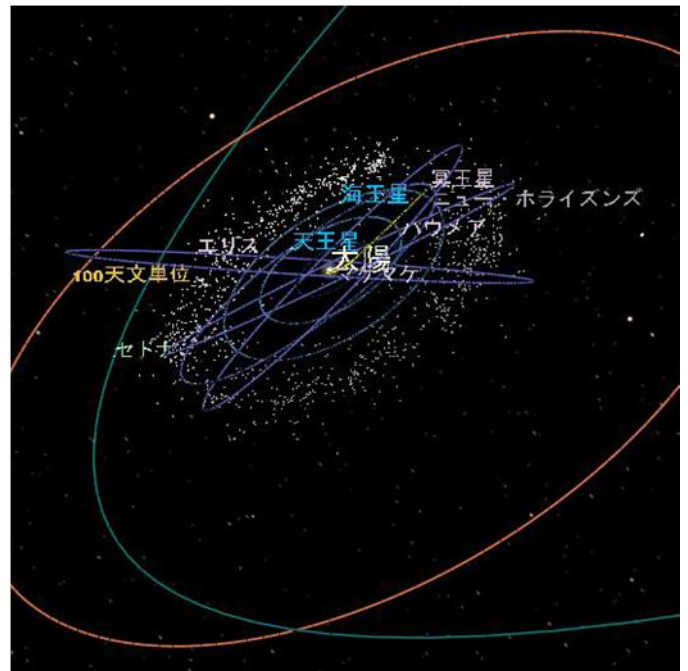
“Mitaka” は、いよいよ太陽系に接近してきた。そろそろ惑星が見えるだろうか? 宇宙旅行を続けよう。



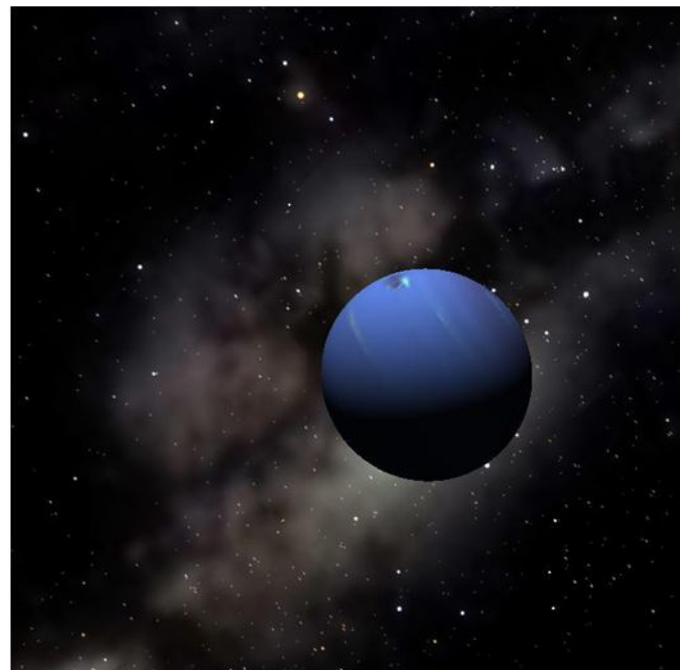
⑦太陽系から 100 光年。知っている一等星 (恒星) のそばを次々と通り過ぎる。しかし図は 100 万立方光年の宇宙空間、何と「スカスカ」なのだろう。



⑧太陽から 10000 天文単位。1 天文単位は、太陽から地球までの平均距離である。「オールトの雲」は、太陽系の最外縁を取り巻く小天体群で、彗星の元とされているが、まだ直接観測には成功していない。



⑨太陽から 100 天文単位。天王星よりも外側の太陽系天体の軌道が見えてきた。このあたり (地球から約 160 億 km) を、惑星探査機ボイジャー 1 号と 2 号が航行中である。驚いたことに、打ち上げから 40 年近く経っているのに、地球との通信は維持されていて、現在も NASA が運用中、特殊な紫外線を観測して、地球にデータを送り続けているという。



ちょっと海王星に寄り道をして、銀河をバックに撮影してみた。ボイジャーも見た光景である。(つづく)